

財団法人福島県海浜青年の家

第1節 概 要

福島県海浜青年の家は、めぐまれた自然環境のなかで、青少年たちの集団宿泊研修活動をとおして、規律・協同・友愛・奉仕の精神を体験的に会得させ、心身ともに健全な青少年を育成することを目的として、昭和50年5月に開設された県の社会教育施設である。

当所のめざす教育目標は次のとおりである。

- 規則を守り、規律ある生活態度を養う。
- 相互連帯意識を高め、協同の精神を養う。
- 人格を尊重し合い友愛の精神を養う。
- 勤労と責任を重んじ、進んで奉仕する態度を養う。
- 心身をきたえ、自己を高めようとする態度を養う。

1 役員及び職員組織

(1) 理事・監事

役 職	氏 名	所 属
理 事 長	佐 藤 昌 志	福島県教育委員会教育長
副理事長	酒 井 信 人	福島県海浜青年の家所長
常務理事	丹 治 成 男	福島県海浜青年の家次長
理 事	高 城 勤 治	福島県総務部長
理 事	村 岡 房之助	福島県教育庁教育次長
理 事	今 野 繁	相馬市長
理 事	鈴 木 完 一	福島県社会教育委員の会議議長
理 事	太 田 緑 子	福島県青少年教育振興会長
理 事	塚 本 利 勝	福島県教育庁社会教育課長
監 事	近 藤 三 男	福島県総務部財政課長
監 事	大 塚 和 美	福島県教育庁財務課長

(2) 職員組織

職 名	所 長	次 席 務 長 課 兼 長	指 導 課 長	主 事	指 導 主 事	保 健 技 師	運 兼 用 転 務 手 員	計
数	1	1	1	1	4	1	1	10

(3) 運営委員

氏 名	所 属
◎阿 部 智 義	相馬市教育委員会教育長
○井 上 篁	福島県公民館連絡協議会副会長
榎 川 文 倍	福島県青少年婦人課長

氏 名	所 属
金 田 浩 一	福島県教育庁社会教育課主幹
小 泉 弘	福島県高等学校長協会代表
星 重 良	福島県中学校長会代表
太 田 豊 秋	福島県青少年団体連絡協議会代表
草 野 淳 乘	相馬市青年会議所代表
村 岡 まゆみ	相馬市青年協議会代表
種 村 英 明	海浜青年の家友の会長

◎印 委員長 ○印副委員長

2 昭和60年度重点目標と成果

(1) 青少年研修の充実

- 創立10周年にあたる6月に、開所以来の総延利用者40万人を達成した。
- 教育施設としての機能充実と、その発揮につとめたため、利用者の躍進的な増加、前年度に比べ4千人強、約10%の伸びを実現した。
- 開所10年間の最高、延利用者総数4万5千人台を記録した。
- 在学青少年に対して教育効果を高めるため、学校との連携を密にして適切な指導援助につとめたので、小・中学校の利用が、前年に比べ15%と増加、高等学校も4%の増加をみた。
- 学習要求に応じた研修内容の開発につとめたので、より長期の宿泊研修を実施する団体が増えた。総利用団体数にしめる2泊以上の団体数の率は、前年度55%に対し、本年度は63%と増加した。
- 研修団体の自主・主体性を尊重し、適切な指導援助を与えたので、所期の目的を成就したとする団体が多かった。

(2) 主催事業の効果的運営

- 年間3回開催される「集団宿泊指導担当者研修会」では、集団宿泊の意義、効率的な研修の要領、自ら体験した各種野外活動などから、引率指導者の資質向上が図られた。
- 好評な恒例事業である「親と子・海浜のつどい」では、海水浴・砂の芸術、キャンプファイヤーに加えて、今年度は、テントでのキャンプ、ナイトハイクなどの新たな行事が加えられたため、野外活動や野営をとおしての親子の絆はいちだんと深められた。
- 国際青年年にあたる「勤労青年のつどい」は、「始めよう今、見つけよう未来」のテーマのもとに、趣向をこらし、恒例のヨット・カヌーの海洋活動や先輩の講演に加えて、参加者が自由に語り合う討議と、野馬追祭典の螺貝隊や地元民の郷土民舞の友情出演などもあった「海浜青年フェスティバル」のキャンプファイヤーは、若人の情熱をいやがうえにも燃えさせた。
- 定員を上まわる申込のあった「レクリエーション指導者